

川崎市における官民での互助・共助の取り組み

第2層生活支援コーディネーターを小規模多機能居宅介護施設などに委託により設置した。小地域での互助・共助によって課題解決に取り組む。現在15事業所、今後は第8期かわさきいきいき長寿プランに沿って増やす予定。

川崎市 第2層 生活支援コーディネーター

南生田地域

店が近くに無い

新宿から電車で20分の最寄り駅から徒歩25分。川崎市北部の多摩丘陵に、約40年前から開発された住宅地。当時から住む住民は高齢化が進み、8050も多いと言われている。

川崎市・小地域における生活支援体制整備事業

小地域において「個別支援」と「地域支援」を有機的につなぎ合わせ、人と場、さらには個々の生活と地域をつなぐ取り組みを地域の介護サービス事業所に生活支援コーディネーターを配置して行う。住民・事業者等の主体との協働による地域の生活課題解決や閉じこもりの予防を目標としている。

第2層 生活支援 コーディネーター



住民の抱えている課題、地域の抱えている課題を住民とともに探ることで解決のための糸口や課題改善のための取組のきっかけを模索している。

地域交流スペース いくたの丘



地域包括ケアシステムの構築のため、地域住民が集い、地域福祉のための活動や交流などを目的としたスペースとして認知症高齢者グループホームなどに設置。

地域に出る マルシェへ出店



地域のイベント(登戸・たまがわマルシェ)に介護相談所として出店をした。若い世代の方が多く、親の介護についての相談が多かった。ダブルケアについても相談もあった。

商店まで徒歩20分 出張パン販売



毎週水曜日11~13時パン屋さんをやっています。コロナ禍で販売が落ちている店舗と協力した。地域の困りごとのある人と携わることができる。

連携



コミュニティの再編や地域の団体の中間支援を行う多摩区ソーシャルデザインセンターや子ども食堂などのノウハウを持つNPO法人アイゼンと連携して助け合いを広げている。

小多機が起点



小規模多機能型居宅介護施設、通称「小多機」はご存じの通り泊り・デイ・訪問を兼ねた地域密着型介護施設として少しずつ知られてきている。実際の運営を持っていると地域とのつながりが強く、地域交流スペースとの相性も良い。顔の見える関係から始まり、生活支援コーディネーターが関わり、地域の困りごとを見つけていながら地道に取り組んでいる。

配置・取り組み



生活支援コーディネーターをチームとして考えている。ケアマネ、地域の人、活動している人などを集め、自分の得意分野を集め地域の困りごとを解決しようとしている。はじめて2年、一步一步試行錯誤しながら地域での助け合い活動、介護予防、引きこもり防止などを目標に取り組んでいる。

ニーズから...



最寄りのバス停と我々の施設との標高差が3.0mある。そしてバスの便が上下線で通期時間帯に合わせているので高齢者が買い物に行くの不便を感じている。このようなニーズから、バス停まで小規模多機能の車を使い、生活支援コーディネーターが自ら送迎をする試みを秋には始める。将来的には地域の助け合い活動へ発展させたい!



← 発表は、株式会社 日本ライフケア「結」ケアセンターいくた 小規模多機能居宅介護 生活支援コーディネーター 俵 隆典 (委託事業) 川崎市 健康福祉局 地域ケア推進室 →



← 詳しくは、<https://mailpost6.wixsite.com/minami-ikuta>をご覧ください